

平成 24 年 12 月 定例会

◆二十二番（勝山秀夫君） 二十二番、公明党長野市議員団勝山秀夫でございます。

子供の読書推進についてお伺いします。

子供にとって読書とは、言葉を学び、感性を磨き、表現力、創造力を高め、豊かな人間性と社会性を身に付けていく上で欠かせないものであります。

朝の読書が定着した学校では、本を読まなかった生徒が読むようになった、集中力が付き、授業中も静かになった、遅刻やいじめが少なくなったなど、全国でも大きな効果があると報告されています。

本市におきましては、平成十三年に公布された子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、平成十九年に長野市子ども読書活動推進計画を策定し、実施しました。

今年度、第二次計画の策定をしているようではありますが、第一次における成果と課題、第二次計画の重点ポイント、新たな取組、進捗状況と今後の予定、策定作業はどのような体制で行っているのかお伺いします。

◎教育長（堀内征治君） お答え申し上げます。

御指摘のとおり、子供たちが本に親しみ、自主的に読書する習慣を身に付けることは、生きる力の育成につながるものと考えます。そのため本計画は、子供の読書活動の環境整備と読書機会の充実のために策定し、推進しているものでございます。

第一次計画の具体的成果としては、市有施設における赤ちゃんのおはなし会や子育て教室での読み聞かせの実施、長野市版ブックスタートおひざで絵本事業などにより、幼少期から本と触れ合うことの大切さや楽しさを伝えるよいきっかけづくりができたこと、小・中学校及び市立長野高校において全校一斉読書が行われ、読書活動が推進されたことなどが挙げられます。

課題としては、習い事やテレビやゲームに関わる時間の増加等子供を取り巻く環境が変化する中で、家庭で読書をする時間が減り、また学年が進むにつれて、学校内外の諸活動の忙しさや本以外への興味、関心が広がり、読書量が減る傾向にあることが挙げられます。

第一次計画の成果と課題を踏まえ、五月から第二次計画の策定に取り掛かり、学識経験者や保育所、幼稚園、学校、PTA関係者、公募市民など十名の委員で構成される策定委員会での御審議を経て、十一月二十七日に中間答申を頂いたところでございます。

この中間答申では、基本的視点として、読書に親しむ環境の充実、家庭、地域、図書館、学校の連携の推進、子供の読書活動を支える人材の育成の三点を設け、重点事業を定めて推進するとしております。

新規の取組としては、乳幼児期から絵本に親しむことが重要と考え、出生届の際など早い時期からの保護者への読書啓発や、社会教育施設の行事に合わせた読書関連企画の実施、さらに長野市家庭の日における読書の奨励などが盛り込まれております。

今後、この答申を基に市の素案を策定し、各会派へ御説明するとともに、パブリックコメ

ントを行い、来年三月までには最終案をまとめていく予定でございます。

以上でございます。

現在、第二次の読書推進計画の素案を作っている段階であると思いますが、子供に接する機会の多い学校現場又は学校の図書館からの声というのは調べたでしょうか。

◎教育長（堀内征治君） お答え申し上げます。

学校現場の声、先ほど申し上げましたように、学校の図書館関係者も入っての策定審議会になっておりますので、その中を通じながら、また私どもの学校とのつながりの中で吸収しながら、この策定をさせていただいているところでございます。

◆二十二番（勝山秀夫君） 私、現場を回っていろいろ声を聴いたのですけれども、ちょっと校長先生が知らなかったとか、様々そういった現場の声がありましたので、しっかりとその辺、現場の声を吸い上げていただきたいと思います。

続きまして、小・中学校の図書館について伺います。

平成二十四年十月二十日に長野県図書館協会から発行された長野県における図書館の現状と今後の報告の中に、小・中学校の図書館について幾つかの問題点が指摘されておりました。一つ目は、司書教諭についてです。

これからの学校教育において、情報活用能力の育成が求められており、学校図書館の役割は、ますます大きくなっています。司書教諭は、児童・生徒への指導法や教員への支援の方法などについて指導する立場にあり、情報に関する新しい知識、技術を常に評価し、取り入れる役割が果たせるように、学校体制の中で司書教諭の位置付けを重視することが必要だと言われています。

しかし、実態としては、学校運営上での校務分掌の一つとしての職務で、司書教諭も学級担任や教科担任を持ちながら図書館運営に関わるので、活動時間を十分に確保することが難しい現状にあるということです。

また、学校図書館が機能するためには、学校司書との連携調整や児童・生徒との関わりが必要ですが、学校司書の勤務時間帯との調整が困難な場合が多い実情があります。

公共図書館や他校の図書館との情報交換の機会がほとんどなく、相互に学ぶ機会を確保する必要があると問題が指摘されていますが、長野市の現状と対策を伺います。

◎教育次長（中村正昭君） お答え申し上げます。

本市の状況でございますが、司書教諭は、十二学級以上の学校には配置しなければならぬとされておりまして、本市にも対象となる学校には配置されておりますが、専任として配置されているものではありません。司書教諭の実態につきましては、議員御指摘の状況とほぼ同様と考えておるところでございます。そのため本市においては、全小・中学校に補助金

を交付し、日常の図書館業務を行う学校図書館職員を配置できるようにしております。

対策でございますけれども、司書教諭が公共図書館職員や他校の図書館の教職員との情報交換を行う機会を持つことは、学校図書館教育研究会や長野県図書館大会への出席により可能ですので、参加を促してまいりたいと思います。さらに、教育センターにおいては、図書館教育や読書指導の講座を設けております。今後は公共図書館から講師を招き、運営のノウハウを学ぶ講座の設定等を検討し、図書館運営の向上に役立ててまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆二十二番（勝山秀夫君） 二つ目は、小・中学校の図書館における学校司書についてお伺いします。

現在、長野市の全小・中学校に学校司書が配置されています。雇用形態は嘱託や臨時雇用がほとんどです。学校司書はいまだ法制化されていないため、その呼称、位置付け、待遇、雇用条件等は自治体により異なり、不安定な身分、賃金格差問題、研修機会の保障が無い等、多くの問題が存在します。

長野県における図書館の現状と今後の方向の中に、学校司書を地方自治体の制度の中に明確に位置付け、身分を安定させ、待遇を向上させるとともに、その専門性を高めることが望めます。その上で学校図書館の役割、機能を十分に発揮できるモデル的な学校図書館を、自治体政策として設置、整備することが考えられますとありますが、長野市としての御所見をお伺いします。

◎教育次長（中村正昭君） お答え申し上げます。

学校司書、すなわち学校図書館職員は、本市においては各学校が配置しており、その人件費分として、各学校に学校図書館運営費補助金を交付しております。従来より一日五時間、年間二百十日をその基本目標に据え、今年度その目標を達成いたしましたところでございます。

待遇、雇用条件などにつきまして、各学校での図書館運営の状況に応じ異なるため、学校ごと学校図書館職員と個々に契約しております。学校図書館職員の雇用形態については、基本目標が今年度初めて達成いたしましたことから、今後その勤務実態や状況などを把握、検証し、研究を図ってまいりたいと考えております。呼称につきましては、学校図書館司書の資格を設置要件としていないため、学校図書館職員としておりますが、各学校では司書の先生、図書館の先生と呼ばれております。

また、学校図書館職員への研修は、教育センターで実施している図書館教育や読書市場についての参加も促しております。今後も校長会等を通じ、その参加を促進してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、学校図書館職員は司書教諭との共同により学校図書館運営を行っているため、とても重要な存在であると認識しております。

なお、モデル校につきましては、学校図書館職員の雇用形態等の研究の経過を見ながら、他の自治体の動向も踏まえ、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆二十二番（勝山秀夫君） 一つ確認ですが、学校司書の方も研修が受けられるということでしょうか。

◎教育次長（中村正昭君） お答えを申し上げます。

先ほど申し上げましたけれども、ちょっと早口で申し訳ございませんでした。各学校の校長に、センターで設けている講座に参加できるよう、参加を促してまいりたいと思っております。

以上でございます。

◆二十二番（勝山秀夫君） 学校図書館と地域の関わりについてお伺いします。

次代を担う子供の健やかな人間形成を図っていくためには、地域全体で連携して子供を育てていく必要がありますが、現在、核家族化等により、子供と地域の関わりが薄れてきています。

本年四月、山形県西川町西川小学校に新図書館が開館しました。この図書館は小学校の児童だけではなく、一般の町民も利用できます。この図書館を通じて、学校と地域の交流の推進が狙いの一つです。このような例は全国的に見ても大変珍しいケースではありますが、地域社会全体で子供を育てる取組として期待されています。

長野市でも、今後、子供と地域と関われる学校図書館を検討されてはいかがでしょうか、御所見をお伺いします。

◎教育次長（中村正昭君） お答え申し上げます。

現在、地域に開かれた学校を目指して、学校ごとに授業公開や地域の方を外部講師に招いての授業を初め、様々な取組を行っております。

また、地域の子供は地域で育てるという考えの下、地域の皆様の御理解と御協力を得て、子供たちの見守りもしていただいております。

学校図書館も、読み聞かせのボランティアや、ちょうど今頃の時期でございますと、図書館内の飾り付けなど、地域の方々に御協力をいただいて、その充実を図っていただいております。

御質問いただきました学校図書館の一般開放でございますけれども、不特定多数の利用者が訪れることから、学校運営やセキュリティの問題からも困難であり、本市ではその導入は考えておりません。

地域へ開かれた学校は願うところであります。例えば学校における読書活動を取り入れ

ての地域の方との交流については、現在の読み聞かせなどに加え、子供たちが高齢者施設を訪問して朗読会を開催いたしたり、地元の歴史を題材に交流を行うことなど考えられますので、今後も研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆二十二番（勝山秀夫君） 私も、現場のある中学校の校長先生、こういった地域に図書館を開放したいという、そういった思いがあって、いろいろな構想もありまして、また現場の意見をしっかりと聴いていただきたいと思います。

良書を読むのは良い人との交わりに似ているとは、アメリカの哲学者エマーソンの言葉です。若いときに良書に触れ合うことは、良き先生、良き友達を持つことと変わらないぐらい大切なことです。子供が良き本に接する機会、環境をつくってあげるのは教育者の責務だと思いますので、子供の読書活動の推進に更に力を入れていただくようお願いをしまして質問を終わります